

オバマ大統領、国連で演説

## アメリカ単独行動主義と決別し、国連重視を表明

=いよいよ核兵器廃絶の時代を県民にアピールしよう=

オバマ大統領は昨日23日、国連総会で核兵器廃絶、平和と戦争、環境、貧困等について演説し、イラクへの武力行使や国連軽視のアメリカ「単独行動主義」と決別し国連重視の国際社会を表明した、とマスコミは報道した。このオバマを私たちは大いに歓迎しなければならないし、また私たちの運動を勇気づけるものです。

ソ連崩壊後、アメリカは唯一の軍事・政治・経済大国として力の政策を国際社会に押しつけ平和を破壊し世界経済を混乱させてきました。この「単独行動主義」はアメリカ国民からも見放されたのです。

アメリカが決意すれば、そして国連で決めれば、世界の人々が望んでいる核兵器廃絶は実現します。いま、そのような状況が生まれつつあります。アメリカがその方向に動かざるをえず、そして動きだしたからです。昨年までは考えられない事でした。戦後50年以上かかって、私たちの原水爆禁止運動は核実験反対からはじまり核軍縮そして、いま核兵器廃絶の入り口まできたのです。世界の人々と声を合わせてともに立ち上がりましょう！

「憲法を守れ！」から「憲法を活かす」運動を県民に広く・深く訴えていきましょう。  
憲法9条のここは「核兵器廃絶・紛争は武力でなく話し合いで」にあります。

### 秋の宣伝行動 第1弾 (宣伝力一月間) 宣伝力一行動日程

1. 県北地域： 10月18日(日)～31日(土) 2週間 (県の宣伝力一) 担当者：川又・人見
2. 鹿行地域1 (鹿嶋・鉾田・神栖地域)： 10月17日(土)～24日(土) (鹿行民商宣伝力一) 担当者：関口
3. 鹿行地域2 (潮来・行方地域)： 10月17日(土)～24日(土) (潮来市職宣伝力一) 担当者：風間・木村
4. 県央地域：
  - 水戸南部地域 10月5日(月)～7日(水) (県宣伝力一) 担当者：神長
  - 水戸西部地域は会議を開いて運行日程を決めます。
  - 笠間・旧友部・内原地域は10月11日(日)～17日(土) 担当者：川井・谷津・池田
5. 県南地域1 (石岡・土浦・阿見地域)： 11月1日(日)～7日(土) (県宣伝力一) 担当者：山口由夫・柳岡
6. 県南地域2 (取手・守谷・つくばみらい・莖崎地域)： (県宣伝力一) 11月8日(日)～14日(土)を予定しますが、最終的には各平和委員会と話し合っ決めて。 担当者：渡辺・花沢
7. 県西地域：
  - 筑西地域 10月10日(土)～17日(土) (結城市職力一) 担当者：前田清
  - 結城地域 担当者：前田誠治 10月17日(土)～23(金)を予定。24日の話し合いで決めます。

ストップ! 海外派兵・米軍基地強化  
軍事費削ってくらしへ 日米軍事同盟打破、基地撤去

安保改定50年へ  
2009年

## 日本平和大会

12月11日～13日 in 神奈川

11日(金)夜7時～ 開会総会(関内ホール)

12日(土)午前～夕

分科会・シンポ、動く分科会(横浜中心に)

夜 青年集会(関内ホール)など

13日(日)午前 閉会総会(横須賀市文化会館)

◎12月10日～11日 国際シンポジウム

(横浜市技能文化会館)

分科会や参加費についてはわかり次第お知らせします。

各平和委員会で参加者の検討をして下さい。

歓迎!! 新入会員のみなさんです

ともに平和の声を大きく広めていきましょう。

新入会員紹介

- 小田部 京子さん (小美玉市)
- 岡部 せつ子さん (守谷市)
- 宮本 隆幸さん (取手市)
- 島田 修一さん (旧友部町)
- 関 義衛さん (旧緒川村)
- 加藤木 一郎さん (東海村)

各平和委員会・平和の会からの仲間づくりをおまちしています。

## 平和かわら版

No. 543

平和新聞茨城版(月3回発行)

2009.9.25

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



## 「戦争の実相を伝える平和展09」 を振り返って

北茨城平和の会 柏木 裕美

今年で2年目の北茨城9条の会主催の「戦争の実相を伝える平和展09」新聞や口コミで去年よりも多くの人々が様々な思いを抱きながら4カ所それぞれの会場に足を運んで下さっていた気がします。

そういった方々の中で私は磯原駅構内の多目的スペースを会場にしていた時に来場された方の話が特に印象に残りました。その方は戦時中磯原駅からも見える、いえ、磯原にいればどこからでも見える山の麓に戦時中住んでいたそうで、ある日、その山の向こう側から戦闘機が飛んできて、近くにいたおじさんが小学生だったその人に覆いかぶさるように伏せさせ、息が詰まるくらい苦しかったし、怖かったという話でした。いつも見慣れていた山や海の向こうから鳥ではなく戦闘機が飛んできた。

64年前の8月まで、そういった情景が見られたのです。見られただけでなく、親兄弟親類縁者が、その戦闘機が運んできた爆弾や砲弾によって命を奪われたという事実をもっている方も少なくはないはずです。

ただそういった事実をどれだけの人の子や孫に伝えているでしょう。おそらく、いえ、きっとほとんどの人が口にすればその時の情景の恐ろしさや身内を亡くした喪失感に襲われることを否んで、口にしないでいる人のほうが少なくないのではないのでしょうか。

そういったなかで、こういった展示会に足を運んでいただき、幼少時の記憶を語っていただくということは本当に「有り難い」ことだと思いました。

以前テレビで、沖縄の元ひめゆり部隊の隊員だった方に当時活動していたガマ（壕）の前で戦時中の話をしてもらい、それを録画し、自分達の知識以上のものにしてひめゆり部隊のことを語り継いでいこうと努力している私と同年代の女性達のことを取り上げられていたことがありました。

私のように戦争を知らない世代が増えつつある今日、こういった展示会の持つ意義は、戦争を知らない世代に戦争の実情知らしめると共に、戦時を知る人々の口を自然と開かせてくれる機会を持たせてくれる貴重なものになりつつあるのかもしれない。今回の展示会を通してそう感じました。

## 「茨城の十五年戦争」パネル展開く

「九条の会・ゆうき」 富永 融

「九条の会・ゆうき」と結城平和委員会の共催より、八月十八日から二十二日、結城情報センター一階展示場で「茨城の十五年戦争」パネル展を行いました。

### 人の命、 鴻毛のごとく軽き時代

先ず、入り口左側には、「陸海軍軍人に賜りたる勅語」が紹介されていました。この勅語は1880年に高揚した自由民権運動に対して、明治政府は立憲君主制への移行という一定の譲歩を行なうと共に、統帥権の確立によって絶対権力を保持しようとしたものである。軍人は、天皇陛下の股肱（ももとひじの意、転じて君主の頼りとする家臣）として、その義は山嶽よりも重く、その死は鴻毛（おおのとりの羽）よりも軽しと覚悟せよと述べられた。基本的人権が保障されている現在では考えられないことである。

### 阿見には海軍飛行予科練習生が

「若い血潮の予科練の七つボタンは桜に錨、今日も飛ぶ飛ぶ霞ヶ浦にゃ、でっかい希望の夢が湧く」70代以上の方なら良く知っている戦意高揚の歌である。若き学徒を戦争に赴かせる為、県南の霞ヶ浦の畔、阿見には海軍飛行予科練習生の練習基地が設けられた。中学四年修了者は甲種、小学六年修了者は乙種の予科練習生である。若き学徒が煽られるように志願した。

### 小川、神之池には特別攻撃隊基地が

そして、常陸小川には、飛行機と命もろ共、敵艦船を攻撃する基地がおかれた。所謂「特攻隊」基地である。神之池には、人間爆弾の基地がおかれていた。文字通り鴻毛の如く命が軽く扱われていた。

### 食糧配給 金属供出 防空壕 竹槍

中央両面のパネルには、飽食の今と違う食糧の配給の様、武器製造のための金属供出、敵機襲来に備える防空壕、今なら笑止ものだが本土上陸に備える竹槍など、苦しい戦時の生活が展示されていた。

### 日立、勝田の艦砲射撃 水戸空襲も展示

一九四五年、七月から八月にかけて、日立、勝田が艦砲射撃を受け、水戸がB29の攻撃を受けた。その一面の焼け跡は凄惨を極めるものであった。最後に「茨城の十五年戦争展」を見て、絶対に戦争はしてはならないと思った。

## 選挙は踊る。その先に見えてくるもの！（続き）

### 3. 「国民投票法」はどうする。改憲の火種は残すな！

憲法改正の条文や改正手続きなどを決める、憲法審査委員会が改憲手続き法＝「国民投票法」の条文で設置することが決まっている。その「審査委員会」をどうするか。選挙後、与野党で早くも攻防がはじまった。結局、衆議院では委員の選出が見送られ、社民党は「委員会」を始動させないよう「凍結」を求めた。言わば民主党政権が数の力＝政治力で押し切った。政治の手法として、道理を通して数の力で決めるのも民主的な方法である。

しかし、今回のこのやり方は疑問視するところである。「凍結」は政治情勢によって凍結解除があるからである。また、野党に下った自民・公明は「国民投票法」が成立しているにも係わらず「委員会」の始動を阻止するのは民主政治でない、と反論。これも一理ある。そもそも、この「国民投票法」は憲法9条を改悪するために充分審議を尽かさないうで数の力にまかせて、安倍内閣が強引に07年5月に成立させたものである。当時、民主党・社民党・共産党などの野党が強く反対した。筋を通して民主党政権は、あとあと問題をのこすような事をせず、初志貫徹の廃案の方向にすすむべきである。

### 4. 日米安保・沖縄基地問題

昨年の沖縄県議会選挙で自民・公明は議会野党に転落していたが、今回の選挙の特徴のひとつは、沖縄県の小選挙区・比例区で自民・公明両党が議席ゼロになったことである。この事は沖縄県民が自民・公明の沖縄基地政策に対して「否」を回答したことをであり、新たな民主党政権は重く心しなければならぬ。日本本土が1952年の平和条約で復帰した。しかし、沖縄は1972年の復帰までアメリカの占領という異常な状況の下で県民は苦しめられ、復帰後も基地の町として基本的に変わらないままである。歴史的にみればアメリカが沖縄に基地を置くのは、日本や沖縄のためでなくアメリカの世界戦争戦略に基づいているという事実である。沖縄の基地問題はアメリカの世界戦争戦略に変更を迫るといふ、日本国民の主権を掲げて交渉しなければ解決しない。小手先では解決できない。オバマ政権でアメリカの世界戦略が見直されている現在、鳩山内閣にとって絶好の機会であり国民が最も期待する課題である。アメリカに気を使わずに日本国民の代表として正々堂々と仕事をしてほしいものである。（伊達）